

所属 創造表現学部		職名 准教授	氏名 小倉 史	学位 修士	兼任している研究科 文化創造研究科
研究分野 思想、芸術およびその関連分野			研究分野のキーワード 美学および芸術論関連		
学歴					
2003年03月	早稲田大学第一文学部総合人文学科演劇映像専修卒業				
2005年03月	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース修士課程修了				
2010年03月	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース博士課程満期退学				
職歴					
2007年04月	愛知淑徳大学 非常勤講師				
2010年04月	愛知淑徳大学メディアプロデュース学部 助教				
2015年04月	愛知総合看護福祉専門学校 非常勤講師				
2015年04月	愛知淑徳大学 非常勤講師				
2016年04月	愛知淑徳大学創造表現学部創作表現専攻 講師				
2020年04月	愛知淑徳大学創造表現学部創作表現専攻 准教授				
Ⅰ 研究活動					
著書(CD・DVD等を含む)・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当箇所・該当頁数
著書(CD・DVD等を含む)					
学術論文					
轢かれる男、渥美清―ふたつの交通事故表象をめぐる覚書―	単著	2023年03月	愛知淑徳大学大学院文化創造研究科 愛知淑徳大学大学院文化創造研究科紀要 第11号		35頁～44頁
〈無責任男〉の登場戦後娯楽映画の変容	単著	2024年02月	青土社 ユリイカ 56 2		132頁～141頁
炭鉱町から来た男、渥美清―松竹大船喜劇の描く「炭鉱」	単著	2024年03月	愛知淑徳大学大学院文化創造研究科 愛知淑徳大学大学院文化創造研究科紀要 第10号		21頁～33頁
瞬きのスター・桑野通子：モダニズムの揺らぎと終焉	単著	2025年03月	愛知淑徳大学大学院文化創造研究科 愛知淑徳大学大学院文化創造研究科紀要 第12号		5頁～18頁
リメイクされる「東京」：映画『新東京行進曲』における流行歌と都市	単著	2026年03月	愛知淑徳大学創造表現学部論集編集委員会 愛知淑徳大学論集 創造表現学部篇 第16号		1頁～10頁
学会発表					
作品・制作等					
その他業績					
Ⅱ 学会等における主な活動					
受賞					
所属学会					
2003年04月～現在	演劇映像学会				

2005年04月 ～ 現在	表象文化論学会		
2005年05月 ～ 現在	日本映像学会		
Ⅲ 社会活動			
2023年07月24日	名古屋市教育委員会 イーブル名古屋主催講座 「メディアと社会 第1回 映画から見る社会と女性」を担当		
2024年06月04日	昭和生涯学習センター主催の〈女性セミナー〉「映画から考えよう、私たちを取り巻く社会」の講師を担当。「松竹女性映画に みるヒロインイメージ」と題し、日本を代表する松竹撮影所で活躍した女優とそのイメージおよび、それらが生み出してきた女性 イメージについて考察した。		
2024年07月02日	昭和生涯学習センター主催の「女性セミナー」において、「これまでの振り返り～表現することの「正しさ」をめぐる～」と 題し、ディスカッション形式で一連の講座を振り返り、社会が要請する「正しさ」とメディアのあるべき姿について討議した。		
2024年11月19日	イーブルなごや主催「メディアの中のスポーツとジェンダー」の講師を担当。「映画で読み解く女性とスポーツ」と題し、映画の 中で描かれたスポーツをする女性の表象について検討した。		
2024年12月10日	イーブルなごや主催「メディアの中のスポーツとジェンダー」講師を担当。「これからのメディアとの関わり方をスポーツを通し て考える」と題し、ディスカッション形式でスポーツのメディア表象から見えてくる社会的な問題について討議した。		
Ⅳ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)			
ノートテイク補助のためのワークシートの活用		2013年04月 ～ 現在	多人数かつシアターでの授業の際にはスライド使用するが、スライ ドチェンジのタイミングで付いてこれられない学生、ノートテイクが 追いつかない学生が増えている。このことを考慮し、ノートテイク の補助のためのワークシート教材を用意した。授業時に学生に記入 させることで、要点把握のコツをつかませ、試験時にはプリントで はなくこれを自分のノートにまとめ上げて臨むよう促し、情報を整 理するプロセスを重視することで、確実に学生が学修力を上げるこ とのできるシステムを構築した。
ゼミでのディスカッションを促すDiscussant Paperの活用		2013年04月 ～ 現在	ゼミではアウトプットの苦手な学生のために、Discussant Paperを 使用。これを記入しながら他者の発表を聞くことにより、個々の意 見が整理され、発表後のディスカッションにスムーズに導入できる ようになった。回を重ねるごとに、学生の積極的な討論への参加が 実現している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
ゼミ誌		2013年03月 ～ 現在	ゼミでの日ごろの成果と学生たちの問題意識を形にするものとして 、学生自身が企画・編集を手掛けるゼミ誌を発行した。映画に関す るレポート、ゼミでの活動記録、映画に関する企画ページなどが収 められている。
卒業論文集		2014年03月 ～ 現在	ゼミ生全員の卒業論文を所収した文集を、毎年発行し、各学生に配 付するとともに、続く学年の学生たちの卒論指導の際の参考として いる。
3年ゼミ生によるレポート集		2023年03月21日	ゼミの3年生の活動記録を小冊子にまとめた。学生が主体となって 実現した講演会や学外活動（各地ミニシアターの訪問と取材、上映 会など）の報告を、学生が分担執筆している。後輩の今後の活動の 里程標として活用するとともに、執筆者自身の卒業プロジェクト執 筆へ向けての意識の醸成を目的としている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
35mmフィルム上映会および文化財保存のための教育		2016年11月 ～ 現在	文化財保護・保存の観点から、ゼミではフィルム映画に触れる機会 を設けている。昨年度は学生に企画から運営までを担当させ、フィ ルム上映会を開催した。ゼミ生は35mmフィルムの映写機操作を学 ぶワークショップに参加し、映写技術を身につけたうえで、観客を 招いての本番上映会において自身でフィルムを廻す醍醐味を味わっ た。この企画は学内外から大変好評で、次を望む声も多く、今年度 も次の学年へと継承する形で開催する予定である。また、ゼミ合宿 ではこれまで、国立近代美術館フィルムセンター、鎌倉市立川喜多 映画記念館、京都おもちゃ映画ミュージアム等を訪れ、それぞれの 機関で学芸員やアーカイヴ専門家の方々の話を伺っている。生きた 映画史を知り、現実の映写機材に身近に触れるなかで、学生が映画 の歴史と現在とを結びつける手立てを発見するよう導いている。
ミニシアター訪問とインタビュー		2022年09月22日 ～ 2023年02月20日	学生たちの関心に基づいて、ミニシアターを訪ね、上映作品を鑑賞 するとともに、シアターのスタッフに映画館経営のこと、ミニシア ターの意義について、インタビューを実施した。 名古屋のシネマスコーレと神戸の元町映画館で話を聞き、内容をそ の年発行したゼミ誌にまとめた。
高校での模擬授業		2026年06月01日	名古屋市立北高等学校において、高校2、3年生向けに授業をおこな った。「文学と映像表現」と題し、視点に注目。文学作品における 「視点」の在り方について解説し、それらが映像作品に置き換わっ

		た際の変化や違いを提示。映像表現における「視点」の機能と比較することで見えてくる表現の多様性や面白さを伝えた。
5 大学運営		
ジェンダー・女性学研究所運営委員	2015年04月～2022年03月	
創造表現学部ホームページ委員会	2016年04月～2022年03月	
創造表現学部倫理委員会	2018年04月～2022年03月	
学生生活委員長	2022年04月～2025年03月	
文化創造研究科 教務委員	2023年04月～2025年03月	
文化創造研究科 紀要編集委員長	2023年04月～2025年03月	
創造表現学部教務委員	2025年04月～現在	
創造表現学部キャリアセンター運営委員	2025年04月～現在	
創造表現学部論集・抄録編集委員長	2025年04月～現在	
V 資格・免許、特許等		
資格・免許		
特許等		